

全体	目次	前回	次回	略解
----	----	----	----	----

 樋口さぶろお^a 更新 Time-stamp: "2003/12/21 Sun 19:04 hig"

プチテスト解答の訂正

1.2 です. ごめんなさい. 最終的な答は同じです.

誤 $\int \frac{1}{x} dx = t^2 \int dt + C,$ 正 $\int \frac{1}{x} dx = \int t^2 dt + C$

8.3 前回の quiz の略解

quiz 略解 14

$$\begin{aligned}
 x(t) &= (1+i)e^{(-2+i)t} + (1-i)e^{(-2-i)t} \\
 &= 2e^{-2t}(\cos t - \sin t) = -2\sqrt{2}e^{-2t} \sin\left(t - \frac{\pi}{4}\right)
 \end{aligned}
 \tag{205}$$

^aCopyright ©2003 Saburo HIGUCHI. All rights reserved.

今日の目標

- 音を立てずにドアが速く閉まるようにばねを調節できる.
- 鉛直方向のばねも単振動することがわかる.

8.4 過減衰と減衰振動

和達 p.87,88

ばね定数 k のばねの力 $-kx(t)$ と, 速度に比例する空気抵抗 $-\gamma \frac{dx}{dt}(t)$ とがある場合を考えよう ($k, \gamma > 0$)

$$m \frac{d^2 x}{dt^2}(t) = -k \cdot x(t) - \gamma \cdot \frac{dx}{dt}(t). \quad (206)$$

$$\iff m \frac{d^2 x}{dt^2}(t) + \gamma \cdot \frac{dx}{dt}(t) + k \cdot x(t) = 0. \quad (207)$$

一般に,

$$a \cdot \frac{d^2 x}{dt^2}(t) + b \cdot \frac{dx}{dt}(t) + c \cdot x(t) = 0. \quad (a, b \text{ は定数}) \quad (208)$$

というタイプの微分方程式を解くのに, $x(t) = e^{\lambda t}$ とおくと λ に対する **特性方程式** $a\lambda^2 + b\lambda + c = 0$ が得られ, この2次方程式の判別式 $D = b^2 - 4ac$ の符号により, 微分方程式の解のタイプも変わるのだった.

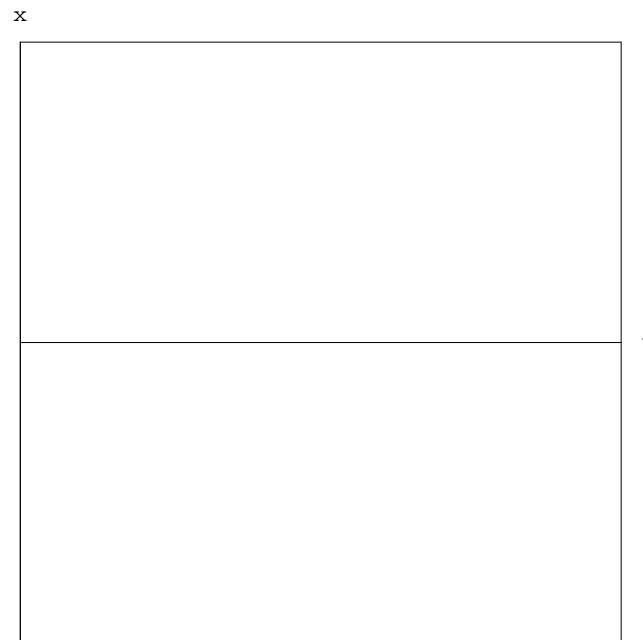
$D > 0$ のとき $D = b^2 - 4ac > 0 \Leftrightarrow 2\sqrt{mk} < \gamma.$ 73

抵抗 γ が大きいとき. アニメ

2 実根. $\lambda = \frac{-b \pm \sqrt{b^2 - 4ac}}{2} = \frac{-\gamma \pm \sqrt{\gamma^2 - mk}}{2} =$

$\alpha, \beta < 0.$

$$x(t) = C_1 e^{\alpha t} + C_2 e^{\beta t}. \quad (209)$$



$$D < 0 \text{ のとき } D = b^2 - 4ac < 0 \Leftrightarrow \gamma < 2\sqrt{mk} \quad 74$$

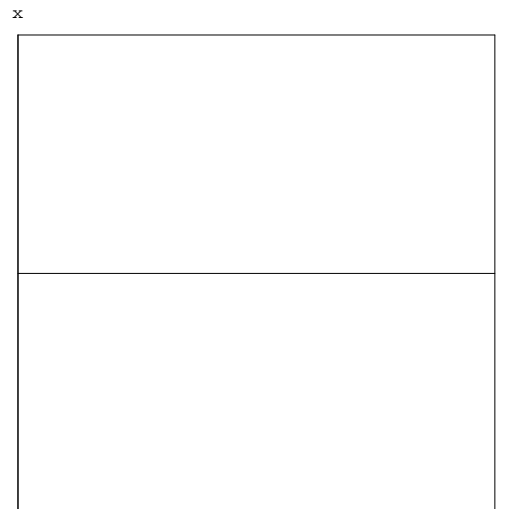
抵抗が小さいとき. アニメ

互いに複素共役な 2 複素根.

$$\lambda = \frac{-b \pm i\sqrt{4ac - b^2}}{2} = \frac{-\gamma \pm i\sqrt{mk - \gamma^2}}{2} = \mu \pm i\omega, \mu < 0.$$

$$\begin{aligned} x(t) &= C_1 e^{(\mu+i\omega)t} + C_2 e^{(\mu-i\omega)t} = e^{\mu t} (C_1 e^{i\omega t} + C_2 e^{-i\omega t}) \\ &= e^{\mu t} ((C_1 + C_2) \cos \omega t + i(C_1 - C_2) \sin \omega t) \\ &= e^{\mu t} (D_1 \cos \omega t + D_2 \sin \omega t) \end{aligned} \quad (210)$$

単振動 $\Leftrightarrow \gamma = 0 \Leftrightarrow D = -mk < 0, \mu = 0$.
減衰振動の中の特別な場合 (減衰しない場合)

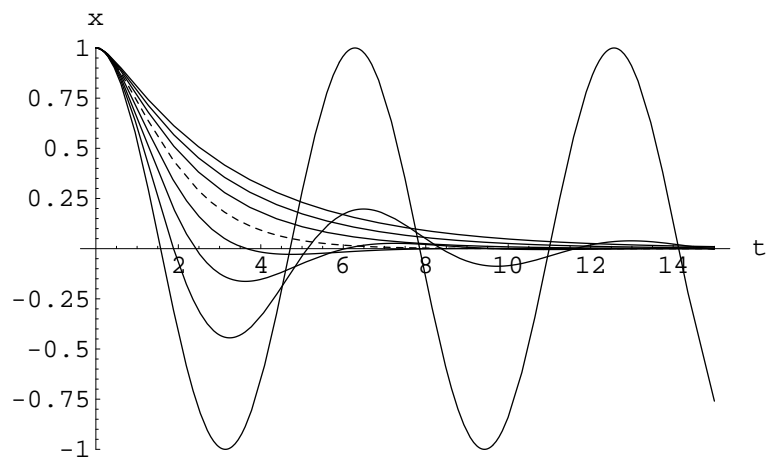


$D = 0$ のとき $D = b^2 - 4ac = 0 \Leftrightarrow \gamma = 2\sqrt{mk}$

重根. 過減衰と減衰振動の境目.

来年数理モデル基礎 I でやります. 臨界制動といいます.

全部をまとめて描いた図

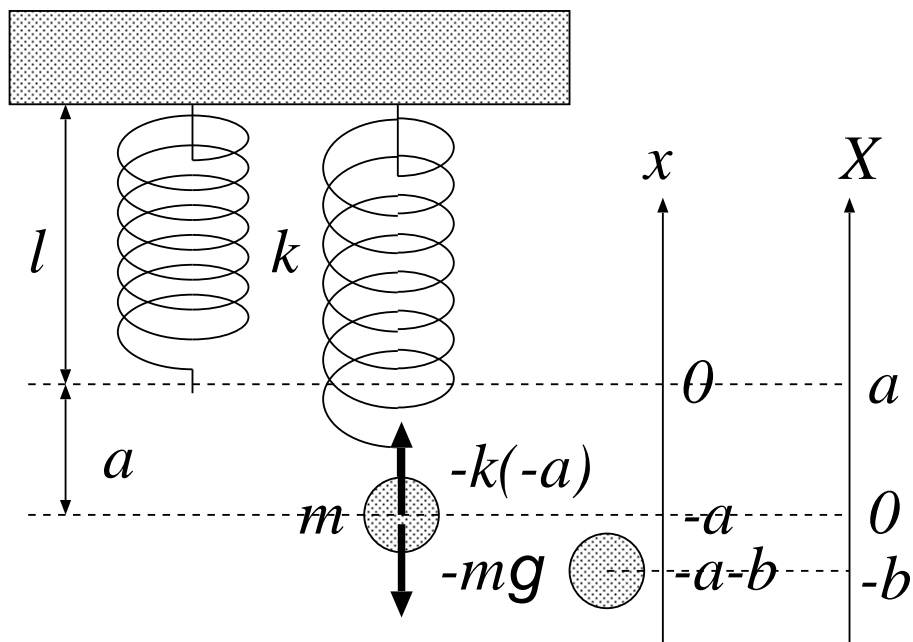


9. 単振動の応用

自然長 l , ばね定数 k , 質量の無視できるばねを重力 (重力加速度 g) のもとで天井から鉛直方向につるす.

質量 = 0 なので, ばねの下端は, 天井から自然長だけ離れる. 下端を原点として, 上向きを正に x 座標をとる.

ここで, 質量 m の物体をばねに取りつける.



物体の運動方程式は,

$$m \frac{d^2 x}{dt^2}(t) = -kx(t) - mg. \quad (211)$$

ばねがのびて物体が静止したときの位置は?

ばねが a だけのびたとすると, 物体の位置は $x = -a$. このときに, 静止している, つまり加速度が 0 だから,

75

(212)

さらに b だけ引っ張って静かに離れたときの運動は?

運動方程式 $m \frac{d^2 x}{dt^2}(t) = -kx(t) - mg. \quad (213)$

初期条件 $x(0) = -a - b, \quad \frac{dx}{dt}(0) = 0. \quad (214)$

単振動だから, $x(t) = e^{\lambda t}$ において (213) の解を探してみよう (?)

$$\frac{d^2 x}{dt^2}(t) + \frac{k}{m}x(t) + g = 0. \quad (215)$$

$$\left(\lambda^2 + \frac{k}{m}\right)e^{\lambda t} + g = 0. \quad (216)$$

$\lambda = \pm\sqrt{\frac{k}{m}}i$ ではない!!

$x(t) = e^{\lambda t}$ という形の解はない.

うまい方法

x 座標の原点を, $x = -a$ に変更したものを考える. この座標を X とかくことにしよう: $x = X - a$.

時刻 t での物体の位置を $X(t)$ と書くと,

$$\text{運動方程式} \quad m \frac{d^2 X}{dt^2}(t) = \boxed{76}. \quad (217)$$

$$\text{初期条件} \quad X(0) - a = -a - b, \quad \frac{dX}{dt}(0) = 0. \quad (218)$$

すなわち,

$$m \frac{d^2 X}{dt^2}(t) = -k \left(X(t) - \frac{mg}{k} \right) - mg. \quad (219)$$

$$\text{整理して} \quad \frac{d^2 X}{dt^2}(t) + \frac{k}{m} X(t) = 0. \quad (220)$$

$$X(0) = -b, \quad \frac{dX}{dt}(0) = 0. \quad (221)$$

この $X(t)$ について $X(t) = e^{\lambda t}$ とおいてみると,

$$\left(\lambda^2 + \frac{k}{m}\right) e^{\lambda t} = 0 \quad \text{よって } \boxed{77} \quad (222)$$

よって,

$$X(t) = C_1 e^{+i\sqrt{\frac{k}{m}}t} + C_2 e^{-i\sqrt{\frac{k}{m}}t} \quad (223)$$

は解. 初期条件より, $C_1 = C_2 = -b/2$. よって,

$$X(t) = -\frac{b}{2} \left(e^{+i\sqrt{\frac{k}{m}}t} + e^{-i\sqrt{\frac{k}{m}}t} \right) = -b \cdot \cos \left(\sqrt{\frac{k}{m}}t \right) \quad (224)$$

$x(t)$ の方で書くと,

$$x(t) = X(t) - a = -a - b \cdot \cos \left(\sqrt{\frac{k}{m}}t \right) \quad (225)$$

きょうの教訓: うまい座標系 (原点) をとるとうまい

もう少し堅実な人のための方法

$$\frac{d^2 x}{dt^2}(t) + \frac{k}{m}x(t) + g = 0 \quad (226)$$

元凶は左辺の g . これを, $x(t)$ に取り込んで,

$$\frac{d^2 x}{dt^2}(t) + \frac{k}{m}\left(x(t) + \frac{mg}{k}\right) = 0 \quad (227)$$

として, $\left(x(t) + \frac{mg}{k}\right)$ をかたまりだと思おう.

第 1 項 $\frac{d^2 x}{dt^2}(t)$ は, このかたまりでかけてない. しかし, 運良く

$$\frac{d}{dt}\left(x(t) + \frac{mg}{k}\right) = \frac{dx}{dt}(t) \quad (228)$$

$$\frac{d^2}{dt^2}\left(x(t) + \frac{mg}{k}\right) = \frac{d^2 x}{dt^2}(t) \quad (229)$$

なので,

$$\frac{d^2}{dt^2} \left(x(t) + \frac{mg}{k} \right) + \frac{k}{m} \left(x(t) + \frac{mg}{k} \right) = 0 \quad (230)$$

とかける. そこで, かたまりを

$$X(t) = \left(x(t) + \frac{mg}{k} \right) = x(t) + a \quad (231)$$

とおいて,

$$\frac{d^2 X}{dt^2}(t) + \frac{k}{m} X(t) = 0 \quad (232)$$

を解けばよい.

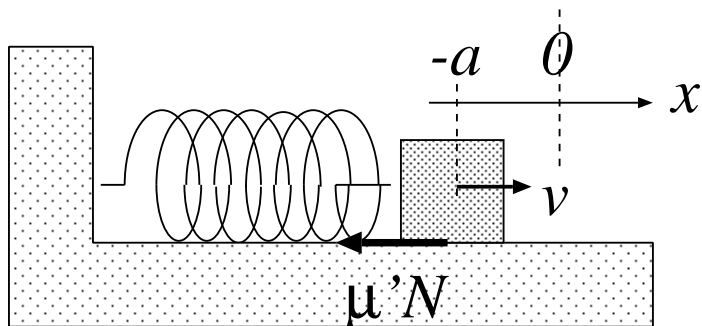
例題 19

質量 m の物体が、ばね定数 k のばねにつながれて、水平面上に置かれている。重力加速度を g とする。

面と物体の間の動摩擦係数を μ' とする。面と物体の間の静止摩擦力は考えない。

ばねを自然長から $a(> 0)$ だけ押し縮めて静かに手を離した。自然長の位置を原点、右向きに正に x 軸をとる。

ばねがのびて物体が一瞬静止するまでの運動を求めよう。



78

79

quiz 15

次の微分方程式を解こう. 積分定数は決定しなくてよい.

$$\frac{d^2x}{dt^2}(t) + 4x(t) - 12 = 0 \quad (233)$$

quiz 16

質量 $m = 1$ の物体が、ばね定数 $k = 4$ のばねにつながれ、水平面上に置かれている。物体は速さに比例する空気抵抗 (比例定数 $\gamma = 5$) を受ける。壁の位置を $x = 0$ とするような x 座標をとると、ばねが自然長のときの物体の位置は $x = 3$ だった。

1. 物体の位置 $x(t)$ についての運動方程式をたてよう。
2. 時刻 $t = 0$ に、物体を $x = \frac{9}{4}$ の位置において、静かに手を放した。物体の運動 $x(t)$ を求めよう。

補講あります! 2003/12/25(木) 1 講時. 冬のプチテスト返却はこのころになります。

ファイナルトライアルあります! 2004/01/23(金) 1 講時. これは科目の成績 50 点分に相当します。